

2018年度 決算概要

2019年5月9日

沖電気工業株式会社

本日のご説明内容

1. 18年度 通期決算について
 - 1-1) 2018年度の振り返り
 - 1-2) 決算の概要
 - 1-3) セグメント情報(売上高)
 - 1-4) セグメント情報(営業利益)
 - 1-5) 営業利益の変動要因
 - 1-6) B/Sの概要
 - 1-7) キャッシュフローの概要

2. 19年度 通期予想について
 - 2-1) 通期業績予想
 - 2-2) セグメント情報
 - 2-3) 営業利益の変動要因
 - 2-4) フリーキャッシュフロー
 - 2-5) 設備投資・研究開発投資

2018年度の振り返り

➤ 成果

- 情報通信では、社会インフラ×IoTを加速、プラットフォームを投入し拡大中。
- メカトロシステムでは、構造改革を実施し黒字化を達成。
- プリンターでは、収益率が向上し安定化。
- EMSでは、前年比増収増益を持続。
- 財務基盤は安定、安定配当を継続する予定。

➤ 課題

- ペーパーレス、キャッシュレス化などのメガトレンドに適応した、持続可能な成長のロードマップの策定と実行。

2018年度 通期決算の概要

- 売上高、営業利益および経常利益は予想比、前年比ともそれぞれ増収・増益。
- 当期純利益も、特別損失の発生があるものの予想比、前年比ともに増益。
- 期末配当金は1株当たり50円を実施する予定(期初計画通り)。

(単位:億円)	18年度 実績	2月1日 予想	予想比	17年度 実績	前年比
売上高	4,415	4,400	+15	4,380	+35
営業利益	175	150	+25	77	+98
経常利益	155	130	+25	85	+70
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	84	50	+34	59	+25
USD平均レート(円)	110.91	110.00		110.86	
EUR平均レート(円)	128.41	130.00		129.70	

2018年度 通期セグメント情報(売上高)

- 情報通信は、社会インフラ関連や通信キャリア向けに加えて、一部官公庁向け売上の伸長により前年比増収。
- メカトロシステムは、ブラジル子会社の連結期間の差、構造改革による事業の見直し影響があり前年比では減収。
- プリンターは、前年度に大型案件があったことなどの影響で前年比減収。
- EMSは、おもに新規連結効果により前年比増収。

(単位:億円)	18年度 実績	2月1日 予想	予想比	17年度 実績	前年比
情 報 通 信	1,843	1,820	+23	1,727	+116
メカトロシステム	827	810	+17	935	△108
プ リ ン タ ー	1,026	1,050	△24	1,089	△63
E M S	652	660	△8	555	+97
そ の 他	67	60	+7	74	△7
合 計	4,415	4,400	+15	4,380	+35

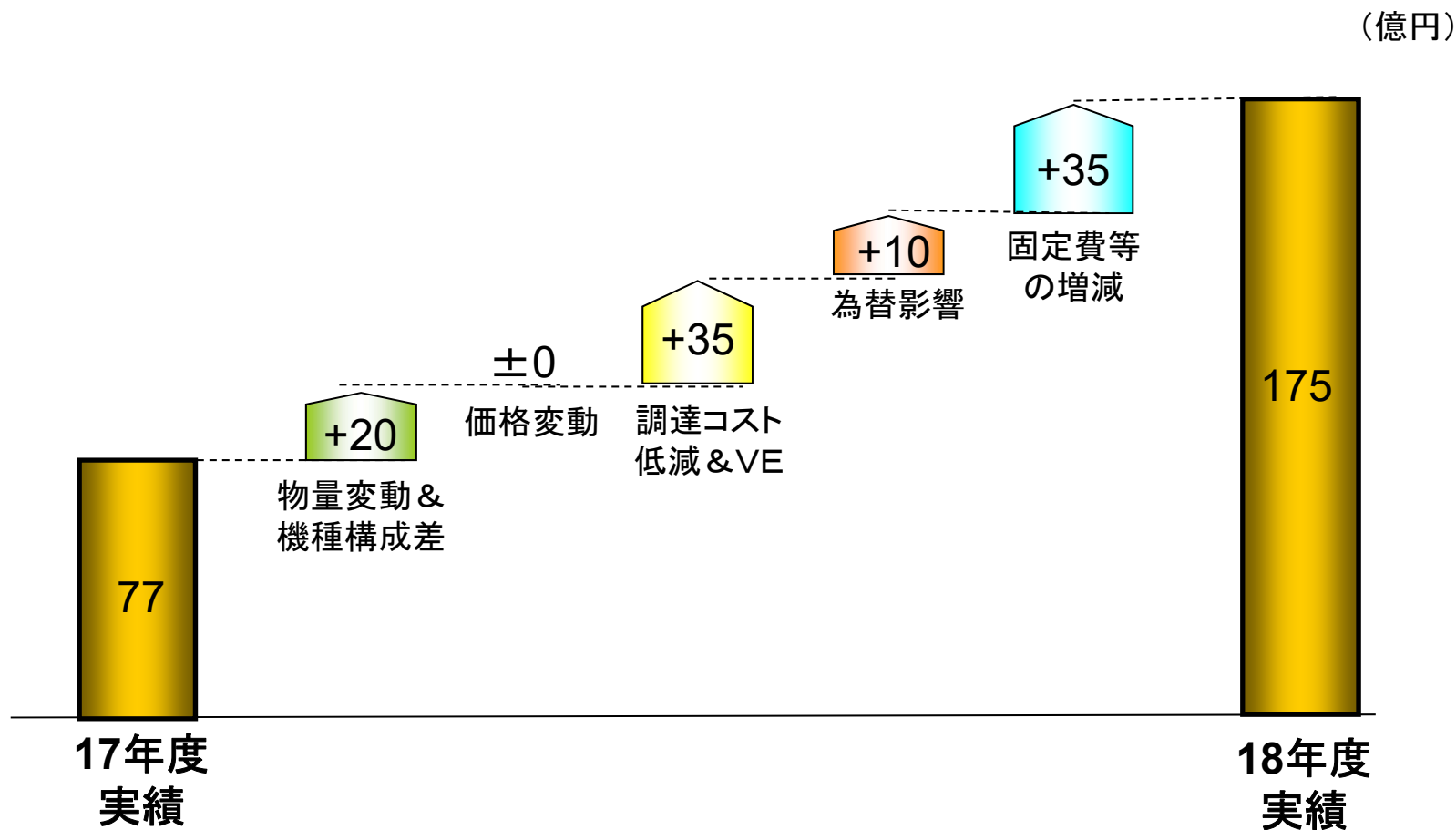
2018年度 通期セグメント情報(営業利益)

- 情報通信は、売上の増加に加えて案件の構成の違いにより、前年比増益。外部流出費用の減少や一部の案件で採算の改善もあり前回予想比増益。
- メカトロシステムは、構造改革の効果により黒字化を達成。ブラジルの構造改革に遅れがあるも、セグメント全体で費用構造の改善が進み、前回予想より改善。
- プリンターは、固定費構造の改善や為替効果などにより前年比増益。
- EMSは、おもに新規連結の効果で前年比増益。一方で一部の特定顧客向けの売上減の影響により前回予想比では減益。

(単位:億円)	18年度 実績	2月1日 予想	予想比	17年度 実績	前年比
情 報 通 信	147	140	+7	135	+12
メカトロシステム	1	△10	+11	△51	+52
プ リ ン タ ー	57	55	+2	27	+30
E M S	37	40	△3	33	+4
そ の 他	9	5	+4	10	△1
消 去 ・ 本 社 費	△76	△80	+4	△77	+1
合 計	175	150	+25	77	+98

2018年度 通期営業利益の変動要因

- 売上の機種構成差に加えて、費用構造の改善もあり大きく改善。



2019年3月 B/Sの概要

- 売上の増加による運転資金の増加は手元資金を充当、さらに有利子負債も圧縮し総資産はやや減少、自己資本比率は変わらず。

(単位:億円)	19年3月	18年3月	前年度末比
流動資産	2,232	2,247	△15
固定資産	1,423	1,418	+5
資産の部	3,655	3,665	△10
流動負債	1,762	1,867	△105
固定負債	891	777	+114
負債の部	2,653	2,644	+9
自己資本	999	1,002	△3
その他	3	19	△16
純資産	1,002	1,021	△19
負債及び純資産合計	3,655	3,665	△10
自己資本比率(%)	27.3	27.3	-
DELシオ(倍)	0.8	0.8	-

2018年度 通期キャッシュフローの概要

- フリー・キャッシュフローは57億円の支出。
- 運転資金および投資の増加に対して手元資金を充当。

(単位:億円)	18年度	17年度	前年差
I 営業キャッシュフロー	64	156	△92
II 投資キャッシュフロー	△121	△105	△16
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△57	51	△108
III 財務キャッシュフロー	△130	△115	△15
現金および現金同等物の残高	268	455	△187
固定資産取得額	134	94	+40
減価償却費	124	130	△6

本日のご説明内容

1. 18年度 通期決算について
 - 1-1) 2018年度の振り返り
 - 1-2) 決算の概要
 - 1-3) セグメント情報(売上高)
 - 1-4) セグメント情報(営業利益)
 - 1-5) 営業利益の変動要因
 - 1-6) B/Sの概要
 - 1-7) キャッシュフローの概要

2. 19年度 通期予想について
 - 2-1) 通期業績予想
 - 2-2) セグメント情報
 - 2-3) 営業利益の変動要因
 - 2-4) フリーキャッシュフロー
 - 2-5) 設備投資・研究開発投資

2019年度 通期業績予想

- 売上高は着実に増加、成長投資を継続するが営業利益率は改善を目指す。前期の特別損失が解消し、当期純利益は大幅増益を予想。
- 年間配当金は50円を予定。
- 為替レート的前提 USD110円 EUR125円

(単位:億円)	19年度 予想	18年度 実績	前年比
売上高	4,500	4,415	+85
営業利益	185	175	+10
(営業利益率)	4.1%	4.0%	+0.1%
経常利益	170	155	+15
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	140	84	+56

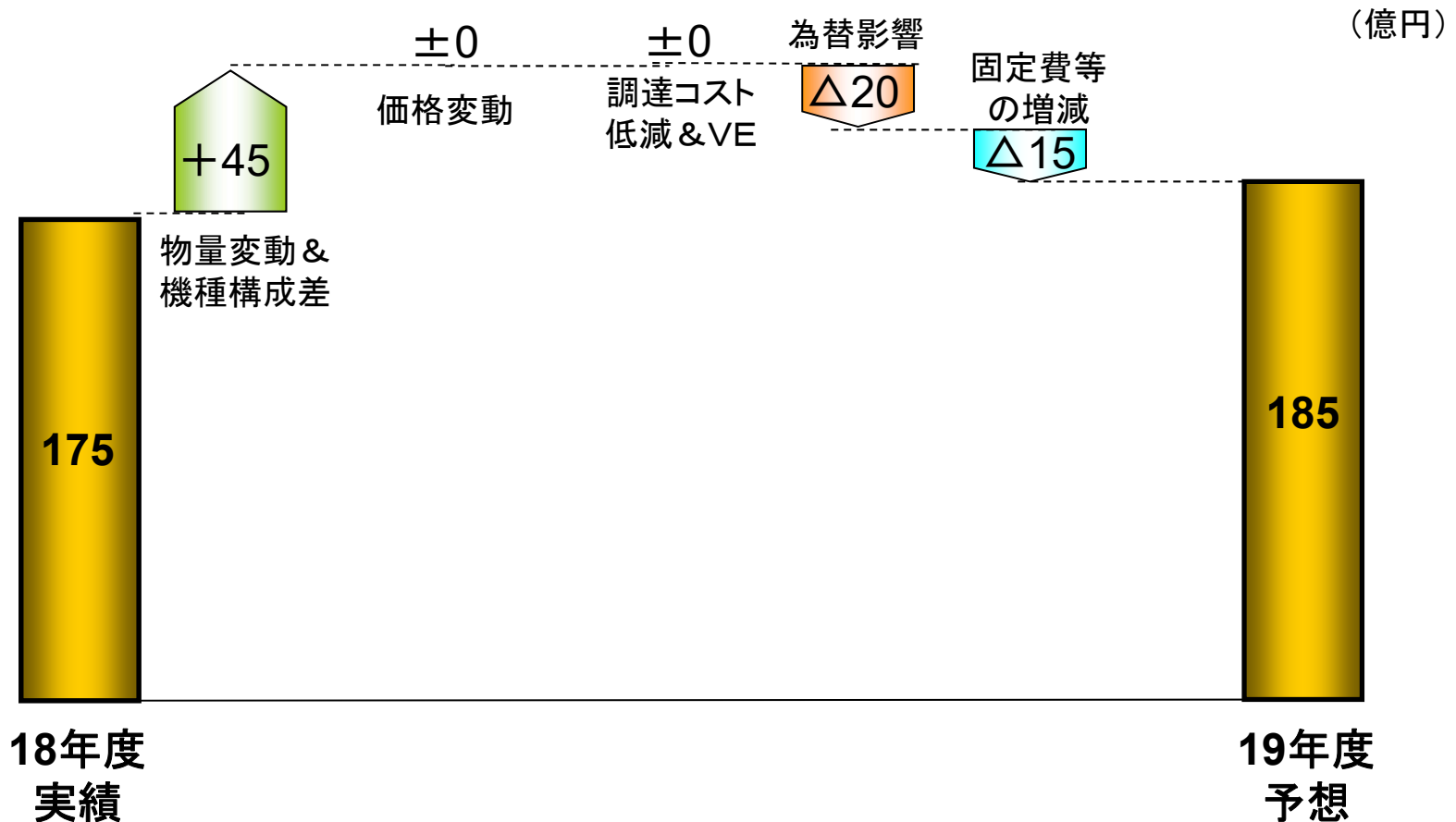
2019年度 通期セグメント情報

- 情報通信は、社会インフラ領域を中心に売上伸長を図る。将来へ向けた投資のフェーズは維持する。
- メカトロシステムは、リカーリングビジネスを拡大し、筋肉質な事業構造を造る。
- プリンターは新商品によるインダストリー市場開拓を進め、機種構成を改善する。
- EMSは新規顧客、新規受注を拡大し増収増益を維持する。

(単位:億円)		19年度 予想	18年度 実績	前年比
情報通信	売上高	2,030	1,843	+187
	営業利益	145	147	△2
メカトロシステム	売上高	720	827	△107
	営業利益	10	1	+9
プリンター	売上高	1,040	1,026	+14
	営業利益	70	57	+13
EMS	売上高	670	652	+18
	営業利益	40	37	+3
その他	売上高	40	67	△27
	営業利益	0	9	△9
消去・本社費	営業利益	△80	△76	△4
合計	売上高	4,500	4,415	+85
	営業利益	185	175	+10

2019年度 営業利益の変動要因

- 物量の増加および機種構成が改善、成長投資を増加。



2019年度 通期フリー・キャッシュ・フロー

- 構造改革費用の減で営業キャッシュフローが改善、成長投資を継続。
- 安定したフリー・キャッシュフローを創出。

(単位:億円)	19年度 予想	18年度 実績	前年差
I 営業キャッシュフロー	250	64	+186
II 投資キャッシュフロー	△170	△121	△49
フリー・キャッシュフロー(I + II)	80	△57	+137

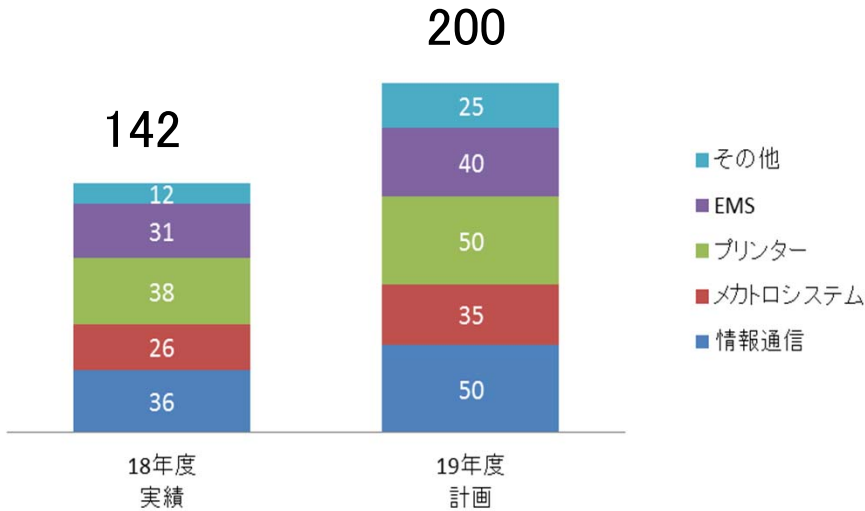
通期設備投資、研究開発投資

設備投資(有形・無形)

研究開発投資

(単位:億円)

【投資額】



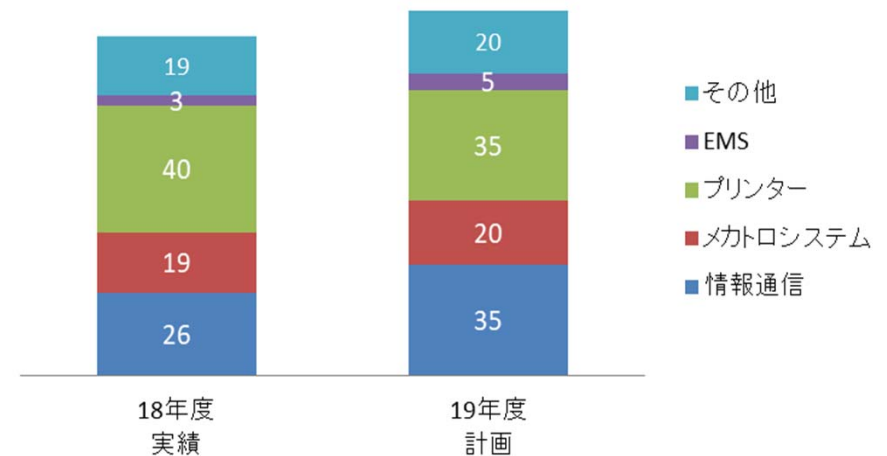
【減価償却費】

116

120

107

115



ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。

また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



Open up your dreams